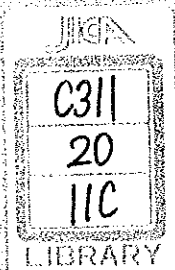


カタール

STATE OF QATAR

任国情報

1991年



国際協力事業団
国際協力総合研修所

JICA LIBRARY



1094630(9)

23123

はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家およびJICA役員等に、任国での生活上必要な事項についての情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家、JICA事務所員、プロジェクト調整員、協力隊調整員とその御家族の多大な御協力を得ました。また、外務省、在外公館、その他関係機関の御好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も、本書の内容を一層充実させ、常に、新しい情報の提供に努めたいと考えております。

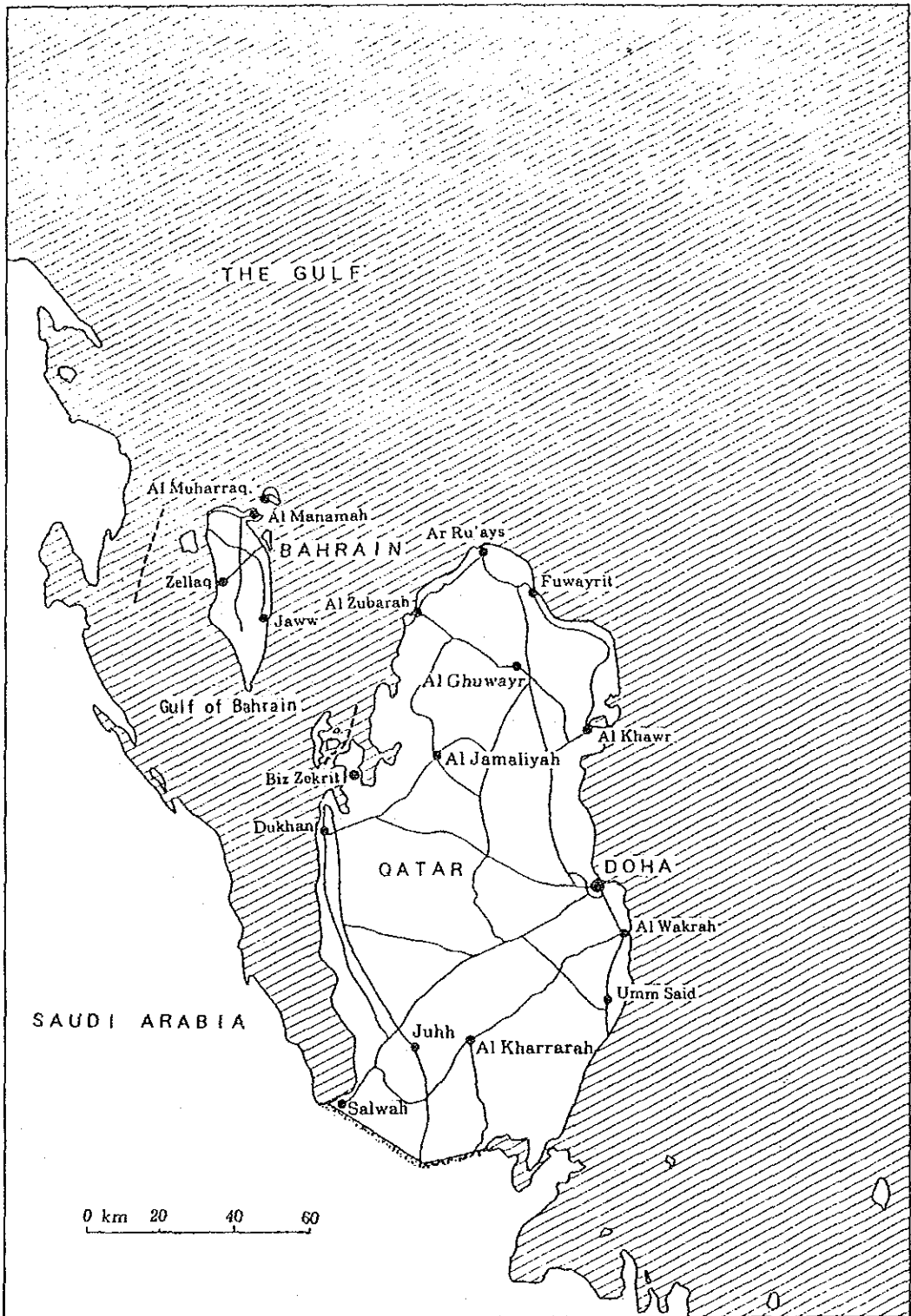
本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

平成 3年11月

国際協力事業団
国際協力総合研修所所長

20894
10802815

カタル



目 次

I 一般事情

1. 主要指標	1
2. 略 史	3
3. 政治、外交	5
4. 経済事情	6
5. 我が国との関係	9

II 生活事情

1. 食生活	13
2. 衣 料	17
3. 住 宅	19
4. 医 療	21
5. 教 育	24
6. 家庭の使用人	26
7. 交通事情	28
8. 通 信	30
9. マスコミ	32
10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ	34
11. その他のサービス	39
12. 観 光	40
13. 治安、緊急時の心得	42
14. 出入国手続および帰国手続	44
15. 私財の輸送、引き取り、購入	49
16. 社 交	51
17. 任国官公庁	53
18. 在外日本関係機関など	54
19. 地方都市	55

I 一般事情

1. 主要指標

1-1 国名	カタル国 State of Qatar
1-2 独立	1971年 9月 3日 (旧宗主国：イギリス)
1-3 首都	ドーハ Doha 人口 22万人 (1988年)
1-4 面積	11,427平方キロメートル (ほぼ秋田県に等しい)
1-5 気候	国土の大半は平坦な岩石土漠、最高地点でも海拔 100メートルたらず。 夏季 (5~10月) は、高温多湿、降雨なし。6~8月は日陰でも気温が50℃近くまで上昇する。 11~4月の気候は比較的温和で時に雷雨があるが、年間降雨量は61ミリメートルと少ない。
1-6 人口	42万人 (1989年) 人口密度 1平方キロメートル当たり36.7人 人口増加率 約1.25% (1989年)
1-7 人種構成	カタル人約20%、ほかインド人、パキスタン人、アラブ人 (エジプト人、パレスチナ人など)、イラン人など。
1-8 言語	アラビア語 (公用語) 外国語としては英語が広く通用する。
1-9 宗教	イスラム教スンニー派ワッハーブ信徒が大多数で、シーア派は約10%
1-10 政治	
(1) 政体	首長制
(2) 元首	シェイク・ハリーフ・ビン・ハマド・アル・サーニ首長 (首相兼任) H.H. The Amir Sheikh Khalifa Bin Hamad Al-Thani
(3) 議会	諮問委員会。首相指名の30人で構成。立法権はない。
(4) 政党	なし
1-11 経済	
(1) GNP	40億 6,000万ドル (1988年) 1人当たり 1万 1,610ドル (1988年)
(2) 主要産業	原油生産：埋蔵量 32億B (1986年) 生産量 39万B/D (1990年下半期)
(3) 貿易	輸出 25億 6,970万ドル (1989年) 輸入 15億 180万ドル (1989年)
(4) 財政	歳入 77億 8,600万カタル・リアル 歳出 117億 900万カタル・リアル

(1990/91年度国家予算)

- (5) 通貨 通貨単位 カタル・リアル (Qatar Riyal)
略号 QR
為替相場 1ドル=3.63QR (1991年 6月)
- (6) 外貨準備高 4億 7,500万ドル (1989年)
- (7) 対外債務 9億 1,600万ドル (1988年)

1-12 日本との時差

時差は 6時間で、日本の正午はカタルでは午前 6時である。

1-13 祝 祭 日

- 4月26日 断食明け祭日
7月 3日 犠牲祭
9月 3日 独立記念日
12月31日 大晦日

※断食明け祭日と犠牲祭はイスラム暦の関係で、毎年月日が変わる。

2. 略 史

カタルの歴史については、18世紀までほとんど知られていない。18世紀後半にクウェイト出身のバニ・ウトバ族の一部が現在のカタル、次いでバハレーンに進入し、主として漁業、真珠採集、貿易に従事しつつ同地域での支配権を確立したが、これが現在のカタルおよびバハレーン人の中心となっている。

一方、湾岸地域が世界史的に注目されるようになったのは、16世紀初めポルトガル人が同地域に進出した後のことである。その後、17世紀にオランダ人が同地域の支配権を確立したが、まもなくイギリス人がオランダ人を追放して、その後の約2世紀半にわたって同地域の絶対的優位を確立した。

当初、イギリス（インドのイギリス政府）と湾岸首長諸国との関係は通商関係を中心としたものであったが、18世紀末頃より湾岸地域で海賊行為および奴隷貿易が特に頻繁となったため、19世紀初めイギリスは数回にわたって遠征隊を同地域に派遣して海賊の本拠地を攻撃し、この結果、1820年イギリスと湾岸諸首長との間に海賊行為と奴隷貿易を禁止する平和一般条約が締結された。

このころまでは、バニ・ウトバ族の首長でバハレーンに本拠地を置くハリーファ家（現在のバハレーン首長家）がバハレーンおよびカタルを支配していたが、その後、同族のサーニー家がカタル東部で勢力を伸ばし、1868年同家の首長ムハンマドがイギリスと協定を結び、海上の平和を守ること、また近隣の首長国との友好を約束した。本協定により、カタルはバハレーンから分離し、カタルにおけるサーニー家（現カタル首長家）の支配権を確立した。

その後、オスマン・トルコおよびワッハーブ宗徒の侵入があったが、1913年のイギリス・トルコ協定でカタルの自主権が認められ、16年カタルはほかの湾岸首長国と同様にイギリスとの間に排他条約を締結した。この条約により、カタルはイギリス以外にその領土を譲渡せず、また、イギリスの同意なしに外国政府といかなる外交関係も結ばないことを約し、他方イギリスは外部からの攻撃よりカタルを保護する旨を約し、カタルはイギリスの保護下に入った。

しかし、1968年1月イギリス政府が財政困窮を理由に71年末までにスエズ以東から軍事的撤退を行なう旨宣言して以来、カタルを含む9つの本岸諸首長国に連邦結成の努力を続けたが、71年8月バハレーンが単独独立を宣言したのに続き、カタルは同年9月同じく単独独立を宣言した（ちなみに、ほかの7首長国は、71年12月アラブ首長国連邦を結成した）。

独立後、アフマド首長の行政手腕に対する不信感が王族の間に広まり、翌1972年アフマド首長の甥である現在のハリーファ首長が叔父の不在中に首長位を奪い新首長に就任した。

1981年、湾岸協力会議（GCC）の結成に参加、以後GCC諸国との協力関係を強めた。88年にはソ連と国交を樹立し、89年以降は企画最高評議会の新設など内政の手直しを行ない、ペルシャ湾の新時代に対応している。

1949年 ドゥハーン油田生産開始

1961年 OPEC加盟

1970年 4月 暫定憲法制定

4月 OAPEC 加盟
1971年 9月 独立
9月 国連加盟
1972年 2月 無血宮廷クーデター
2月 暫定憲法改正（諮問議会の設置）
5月 日本との外交関係樹立
1976年 5月 アブドゥル・アジーズ殿下訪日
12月 第48回OPEC総会（ドーハ）
1977年 5月 ハマド皇太子親任
1978年 3月 国内石油会社完全国有化確認の布告
1979年 4月 エジプトと断交
1981年 5月 GCC 加盟
1983年11月 ドーハで第 4回GCC 首脳会議
1984年 4月 ハリーファ首長来日
1986年 4月 バハレーンとの領土紛争発生
1987年11月 エジプトと国交回復
1988年 8月 ソ連と国交樹立

3. 政治、外交

3-1 最近の政情

1989年、ハリーファ首長による72年のクーデター以来、初の大幅な内閣改造が行なわれ、首長、ハマド皇太子系の若手を登用。特に国防相を兼ねる皇太子の内閣監督権限が強化された。5月には経済・社会政策の立案、実行を統括する企画最高評議会が設置され、ハマド皇太子が議長に就任した。90年8月のイラクのクウェイト侵攻ではイラク非難のアラブ連盟、GCC決議に参加した。同月末には「いかなる侵略をも撃退するため友好国の軍隊派遣を歓迎する」との声明を出したが、国内のパレスチナ人の中にイラク支持の動きが出たため、多くを国外追放とした。

サーニー家が政財界を支配し、その意を受けた若手のテクノクラートが行政にあたる独裁制で、政党、議会は認められていない。ハリーファ首長の近代化政策で、教育、医療の完全無料化など高福祉を実現した。人口の多数を占めるパキスタン人、イラン人、インド人など外国人管理に腐心しているが、1989年7月の内閣改造と同時に査証や労働許可証の取得制限が緩和された。

1990年8月、イラクのクウェイト侵攻に対しては、ハリーファ首長主催の閣議を通じ、全面的に非難する声明を発表した。

3-2 外 交

アラブの団結と調和をモットーに全アラブ諸国、イスラム諸国および非同盟諸国との連帯を強化し、一国単位での経済、国防の発展・強化が難しいことからGCCを通じ、サウディを基軸とする湾岸諸国との善隣外交を推進している。湾岸諸国の政治的統一の基礎としての経済統一の必要性を強調し、GOIC（湾岸工業諮問委員会）を通じて域内産業の相互調整、協調を図っている。

また、穏健アラブ産油国として親西側路線をとっているが、1988年7月に中国と、8月にはソ連との外交関係樹立に踏み切った。

西側諸国との関係では、アメリカ合衆国への過度の接近を避け、また旧宗主国たるイギリスとの関係も、例えば兵器をフランスからも購入するなどして、適度の距離を置きバランスのとれた外交政策に配慮している。

4. 経済事情

4-1 概 観

経済は原油の輸出およびこれに基づく財政収入（歳入の8～9割が原油による）に依存しているため、原油枯渇後に備え国内経済の多様化（工業、農業開発など）を推進しているほか、世界最大級の天然ガス田の開発が懸案となっている。

1989年は、石油価格の回復があり、天然ガス田開発工事の進歩と相まって経済情勢は幾分上向いた。

カタール経済の特徴は次のようである。

- ①政府主導型経済であり、国内経済は政府歳出に、また政府歳入は石油に大きく依存。
- ②国の規模に見合った国内重化学工業化は一応一段落。
- ③国内労働力は外国人労働者に大きく依存。
- ④貿易収支は常に黒字、総合収支は近年赤字。
- ⑤油田寿命30～35年、ポスト・オイル、ノースフィールド天然ガス田（世界最大級）の開発が最大懸案事項。
- ⑥対外貿易は日本が輸出入ともにトップ。

4-2 産 業

(1) 石 油

1989年の平均産油量は39.6万B/D、また同輸出量は37.8万B/Dであった。（いずれも推定値）また、我が国にとってカタールは第8位の原油供給国である。（1989年シェア5.9%）

(2) ノースフィールド・ガス開発

原油の可採年数はあと30年余りで、脱原油戦略の中心に据えられているのが、ラスラファン沖の海底で発見された世界最大規模のノースフィールド・ガス田であり、埋蔵量は10兆7,000億立方メートルで可採年数は100年である。1988年初めから、本格的な第1期工事に着手し、11月、米国のファースト・ポストン銀行を幹事とする銀行団との間で、資金借り入れ交渉も始まった。91年前半には国内消費を目的とした第1期工事が完了の予定である。

(3) ほかの主要産業

その他の産業の中でGDPに占める割合の大きなものは製造業、保険金融業、建設業、商業サービス業などがある。製造業については、前述したようにカタールは早くから脱石油を目指し工業化を推進し、1960年代よりセメント、製粉、化学肥料、石油化学、鉄鋼などの産業を育成してきた。これにより現在では、これら製造業のGDPに占める割合は10%程度（1988年：11.8%）にまでなっている。ただ国内マーケットが小さいため、化学肥料、石油化学および鉄鋼業はその製品のほとんどを輸出している。

またほかに農水産、畜産、運輸通信および電力造水業などがあるが、石油業以外の産業はそれぞれ個別に見ると、小さな国内マーケットを反映した比較的小規模なものである。

4-3 財 政

表1 財政収支の推移 (単位：100万カタール・リアル)

	1986/87 (実績)	1987/88 (実績)	1988/89 (実績)	1989/90 (予算)	1990/91 (予算)
歳入	5,884	7,094	6,657	5,835	7,786
歳出	8,949	8,964	9,025	9,969	9,920
資本支出	1,484	1,409	1,614	1,513	1,789
財政収支	-4,549	-3,279	-3,982	-5,647	-3,923

4-4 貿易、国際収支

(1) 貿易

表2 貿易額推移 (単位：100万カタール・リアル)

	1983	1984	1985	1986	1987	*1988
輸出 (FOB)	12,002	12,245	11,277	6,730	7,435	8,045
輸入 (CIF)	5,299	4,230	4,147	4,000	4,128	4,613

*は暫定値

表3 主要輸入国

(単位：%)

	1983	1984	1985	1986	1987	1988
日 本	21.8	20.0	18.2	17.0	16.3	17.6
イギリス	16.7	15.2	16.3	16.5	16.0	13.8
アメリカ合衆国	9.1	9.5	6.5	5.9	11.9	9.3
ドイツ	8.2	7.5	8.7	9.6	7.1	7.9
イタリア	5.0	5.0	4.9	5.3	4.9	4.3
フランス	4.9	5.5	7.6	5.1	4.3	4.0
アラブ首長国連邦	2.4	2.8	2.6	3.1	3.0	3.1

表4 主要輸入品

(単位：100万カタール・リアル)

	1983	1984	1985	1986	1987	1988
機械・輸送機器	2,328.6	1,493.1	1,622.7	1,482.3	1,666.9	1,820.6
食料品	673.4	791.8	630.1	689.6	706.2	794.0
工業製品	1,038.9	772.3	799.5	757.7	709.2	870.4
雑貨	678.7	621.6	597.1	564.7	536.2	557.0
化学品	260.9	246.4	214.0	226.7	261.8	297.8
飲料・タバコ	103.6	94.6	91.0	94.3	79.3	73.1
未加工材料	144.0	138.8	124.2	128.6	111.9	140.8
燃料	48.4	36.3	32.9	35.1	32.4	33.8
その他	22.2	34.6	35.0	20.7	24.0	25.6
計	5,298.7	4,229.5	4,146.5	3,999.7	4,127.9	4,613.1

(2) 国際収支

表5 国際収支

(単位：100万カタール・リアル)

	1983	1984	1985	1986	1987	1988*
貿易収支	6,703	8,015	7,130	2,730	3,307	3,432
輸出(FOB)	12,002	12,245	11,277	6,730	7,435	8,045
輸入(CIF)	5,299	4,230	4,147	4,000	4,128	4,613
サービス	-5,212	-4,995	-5,132	-3,417	-3,923	-4,382
経常収支	1,491	3,020	1,998	-687	-616	-950
資本収支	-3,660	-2,005	-2,360	-1,085	-1,031	-903
総合収支	-2,169	1,015	-362	-1,772	-1,647	-1,853
リザーブ	2,169	-1,015	362	1,772	1,647	1,853

*推定

5. 我が国との関係

5-1 政治、外交

我が国は1971年9月10日、カタルの独立を承認し、翌年12月に大使館（在クウェイト大使兼任）を設置し、1974年5月に本任大使が着任した。カタルは73年1月に在日大使館を開設した。

1984年4月、ハリーフア首長の訪日を契機として両国関係は着実に発展している。85年3月には第1回合同委がドーハにおいて開催され、両国間の種々の問題につき話し合いが行なわれた。

5-2 経済、貿易

貿易関係については、我が国はカタルから原油などを輸入し（1989年輸入額15億4,600万ドル）、同国に鉄鋼管、自動車などを輸出しており（同輸出額2億1,100万ドル）、同国にとっての最大の貿易相手国となっている。

表1 日本との品目別貿易額（1988年） （単位：100万ドル）

日本からの輸出品目	金額	日本への輸出品目	金額
輸送機械	71.9(41.7)	原油・粗油	993.9(87.2)
一般機械	25.4(14.7)	液化石油ガス	79.5(7.0)
電気機器	25.0(14.5)	石油製品	45.0(4.0)
鉄鋼	21.9(12.7)	加工製品	20.7(1.8)
タイヤ・チューブ	6.0(3.5)		

(注) カッコ内はシェア(%)

表2 日本との貿易額の推移 （単位：100万ドル）

	1985年	1986年	1987年	1988年
日本からの輸出	164.3	147.5	150.4	172.5
日本への輸入	2,185.1	1,126.5	879.7	1,139.1

5-3 経済・技術協力

我が国は、カタルの一人当たりGNPが高い水準にあることから、資金協力は行なっておらず、通信・放送などの分野において研修員受入れなどの技術協力を実施している。1989年度には、ペルシャ湾の安全航行確保のための電波航行援助施設の設置に対して緊急援助を行なった。

DAC諸国は1988年支出純額で108万ドルの2国間のODAを供与しており、これは全て技術協力である。主要援助国はフランス、日本である。

国際機関は88年支出純額で76万ドルのODAを供与している。これも全て技術協力であり、UNDPが96.1%を占めている。

表3 我が国のODA実績

(支出純額、単位：100万ドル)

暦年	贈与			政府貸付		合計
	無償資金協力	技術協力	計	支出総額	支出純額	
85	— (—)	0.18(0.0)	0.18(0.0)	— (—)	— (—)	0.18(0.0)
86	— (—)	0.79(0.1)	0.79(0.0)	— (—)	— (—)	0.79(0.0)
87	— (—)	0.98(0.1)	0.98(0.0)	— (—)	— (—)	0.98(0.0)
88	— (—)	0.46(0.0)	0.46(0.0)	— (—)	— (—)	0.46(0.0)
89	1.91(0.1)	0.55(0.0)	2.46(0.1)	— (—)	— (—)	2.46(0.0)
累計	1.91(0.0)	3.90(0.0)	5.81(0.0)	— (—)	— (—)	5.81(0.0)

(注) カッコ内は、我が国 2国間ODA各形態別総計に占める割合(%)。

表4 年度別・形態別実績

(単位：億円)

年度	有償資金協力	無償資金協力	技術協力
1984年度 までの 累計	なし	なし	0.90億円 研修員受入れ 37人 専門家派遣 17人 機材供与 2.0百万円
1985年度	なし	なし	0.75億円 研修員受入れ 1人 調査団派遣 17人 開発調査 1件
1986年度	なし	なし	2.04億円 研修員受入れ 3人 専門家派遣 2人 調査団派遣 15人 開発調査 1件
1987年度	なし	なし	0.24億円 研修員受入れ 4人 専門家派遣 3人 機材供与 7.3百万円
1988年度	なし	なし	0.61億円 研修員受入れ 4人 専門家派遣 1人 機材供与 7.2百万円
1989年度	なし	2.64億円 緊急援助（電波航行援 助施設設置協力） (2.64)	0.79億円 研修員受入れ 5人 専門家派遣 1人 機材供与 2.9百万円

(以下次ページに続く)

(単位：億円)

年度	有償資金協力	無償資金協力	技術協力
1989年度 までの 累 計	なし	2.64億円	5.34億円 研修員受入れ 54人 専門家派遣 24人 調査団派遣 32人 機材供与 19.3百万円 開発調査 1件

- (注) 1) 「年度」の区分は、予算年度による。
2) 「金額」は、無償資金協力は交換公文ベースに、技術協力はJICA経費実績ベースによる。

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

カタルは、一部の野菜と魚（種類は豊富でしかも安い）をのぞき、ほとんどすべてのものを輸入に頼っているのであるが、たいいていのものが妥当な値で手に入る。

郊外の野菜栽培はカタルにとって貴重な水を、栽培室の一方の壁に設けたフィルターに流し、もう一方の壁から大きなファンで室内の空気を吸い出すことによつて、気化熱により冷えた空気を常に室内に送り込むという、冷室栽培を行なっている。

また、養羊や養鶏にも力をそそいでいるが、イスラム教国であるので、豚肉は一切販売されていない。

料理は、やはり羊肉、鶏肉が中心であり、豆料理や魚料理も豊富であるが、香辛料が強いので、慣れるまで時間がかかる。

ホブスと呼ばれる薄くて丸いパンのようなものに、肉をはさんだサンドウィッチのようなもの（シャバマ）は、安くて軽食にもってこいである。

日本食は一応手に入るが、品数が少なく一度品切れとなると、いつ入荷するかわからない。

(2) 主な食料の出回り状況

米はオーストラリア米、エジプト米がよく出回っているが、近頃カリフォルニア米が手に入るようになった。日本人の間では評判がよいが値段は高い。

パンはスーパーマーケットなどで手に入り、安くておいしいので、自家製パンを作る人は少ないようである。

なお、カタル人の主食は、ホブスとよばれるパンと米である。

野菜は、きゅうり、キャベツ、トマト、レタス、ししとう、オクラ、なす、じゃがいも、さつまいも、玉ねぎ、ねぎ、ニラ、人参、ほうれんそうなど、種類も多くわりあい豊富である。

また、白菜、大根も手に入るが、当たりはずれがあり、ゴボウ、山いもなど日本独特の野菜は入手できない。

夏場になると品数が若干少なくなり、鮮度がおちる。

日本人の中には、もやし、かいわれなどの種を日本から持参して家庭で栽培している人もいる。

果物類もバナナ、オレンジ、りんごなどは年間を通じて豊富に出回っており、季節によつて、メロン、スイカ、ブドウ、桃、柿、ナシ、パイナップルなども手に入る。

スーク（市場）に行けば、安くて鮮度のよいものが買える。

乳製品はヨーロッパ産品を中心に出回っている。

缶詰類、乾物類も比較的豊富である。

牛乳も多種類そろっており、不自由はしない。
肉は安くて豊富であり、“すき焼き用”と頼めば、薄くスライスしてくれる。
魚類はアジ、ハタ類、タイ、サワラなど、種類も豊富で安価である。季節により、イカやカニも手に入る。

カタルではエビ資源保護のため禁漁期があり、1月から7月までは冷凍ものしか入手できない。

調味料は塩、砂糖、ゴマ油、コーン油、ケチャップ、マヨネーズなど、ほとんどのものはスーパーで手に入る。

こちらの酢は酸味が強いので、お寿司など日本料理には不向きである。

香辛料は、日本的なもの以外は入手可能である。

酒類に関しては、イスラム教国であるので酒が禁止されているが月収5,000リアル以上の在留許可所持の外国人に限り、イギリス大使館からリカーパーミット（許可証）を取得すれば、月400リアルを限度に日本酒を除くお酒が購入できる。

タバコは多種そろっており、日本のタバコも売られている。

飲料水はカタルではミネラルウォーターを飲むのが無難である。ミネラルウォーターは、何種類もあり価格差は少ない。

ソフトドリンクは多種あり、どこでも手に入る。

(3) 食料の入手

日本食は、みそ、しょうゆ、酢、真空パックの漬物、焼のり、レトルトパック豆腐、インスタントラーメン、天ぷら、菓子など、ある程度のもはそろっているが品切れになると、いつ入荷するかわからない状況である。

カタルで日本食を扱っている店は、1軒だけである。

主なスーパーマーケットは以下のとおりである。

センター	TEL 321790
ファミリーフードセンター	TEL 422456
サラームスタジオ	TEL 425148
サラームプラザ	TEL 832050

1-2 食器・調理器具など

(1) 食器・調理器具などの入手

洋食器は、日本製のセットを売っている。高級なものは休暇などでヨーロッパに行った時に買って送らせることもできるので、あえて日本から送ることはない。ただし、取り寄せに時間がかかる場合がある。また、日本で使っているもので適当なものがあれば、それを持参した方がよい。

和食器については、まったく入手できないので、予備も含め、日本から持参した方がよい。

漆器については、冬以外は非常に乾燥しているので、あまり高級なものは用意しない方がよい。

西洋料理用の台所用品は、一通り調達が可能であるが、日本料理に必要なものは携行した方がよい。

また、電化製品については、原則的には持って行く必要はない。ナショナル、サンヨー、シャープ、ソニーなどが入っているので、だいたいのがカタルでそろろう。年 2回、セールをするので、その時に買えばかなり安く買える。

(2) 日本から持参した方がよい食器・調理器具など

和食器は携行する必要がある。お客様用の大皿、湯のみもあった方がよい。重箱は、大皿やお弁当箱として、またゼリーや寒天などを流し込むのに便利である。

そのほかに、巻きす、蒸し器、ふきんまたはさらし、出刃包丁、柳刃包丁、すり鉢、急須、井、茶碗、お椀、ぬり箸、茶たくなどは日本から持参した方がよい。

電気製品については、カタルの電圧は 220ボルトであるので、日本から持参したものをカタルで使用する場合は、トランスが必要である。なお、秋葉原では外国仕様の電気製品が売られている。

1-3 外 食

(1) 飲食店

表 1

料理の種類	店 名	TEL
各種料理	シェラトンホテル	833833
	ガルフホテル	432432
	ラマダホテル	417417
	ソフィテルホテル	435222
アラブ料理	オアシスホテル	424424
	シェザンホテル	865225
インド料理	キャラバン	320320
	ウェルカム	419794
中華料理		
イタリア料理	オアシスホテル	424424
東南アジア料理	ファーイースト	411669

日本食レストランはないが、上記キャラバン、ファーイーストは、若干日本食のメニューがある。その他、ケンタッキー・フライドチキンやピザハットも日本人はよく利用している。

なお、主なホテル、キャラバンなどでは、ビュッフェ形式の日替りメニューを出している。

(2) その他の飲食店

イスラム教国であるので、レストランやホテルでは、酒類のサービスは一切

ない。したがって、バー、スナックなどもない。

また、ラマダン（断食月）中は、レストランは夜間しか営業していない。ホテル滞在者は、日中はルームサービスを利用するしかない。

2. 衣 料

2-1 衣 料

(1) 一般事情

カタールでは、夏季の気温は日陰でも50℃近くまで上昇するため、夏物が主であるが、冬季は最低気温が10℃程度に下がるので、カーディガン、セーター類も必要である。

衣類はヨーロッパから多数輸入されているが、女性の場合、日本人のサイズに合う適当なものをみつけることは容易ではない。

国内にいる限り、コートなど厚手の冬物はほとんど不要であるが、冬季にヨーロッパなどへ旅行に出る機会がある場合、一着程度はあった方がよい。

夏季における自宅内および、レジャー服としては、好みによるがTシャツ、短パンなど、できるだけ軽快な服装の方が快適である。

ただ、イスラム教の戒律もあり、派手なアロハ、短パン姿でショッピングなどに外出する習慣はなく、特に女性はあまり開放的な服装はさし控えるべきである。

女性の場合には和服を持参するのが望ましいが、カタールでの洗い張りは不可能である。

(2) 日本から持参した方がよい衣料

男性用品は一応調達可能である。背広上下も日本の半額程度で仕立てられ、仕上りもまづまづであるが、デザイン、品質にうるさい方は持参した方が無難である。

革靴も小さいサイズは種類がきわめて少ないので持参した方がよい。

女性用の衣料品、はきものは、サイズ、デザインともに満足できるものを探すのは困難である。特に、小柄な女性は日本から持参した方がよい。

女性用下着についても、小さいサイズが少なく、また、ほとんどが化繊で綿製品は少ない。

子供用は一応調達可能であるが、価格が高いうえに、サイズ、デザインが限られているので、ある程度持参した方がよい。特に夏服は着る期間も長く、消耗が激しいので予備も必要である。

しかしスークに行けば、質は保証できないが安く買える。

紙おむつは調達可能である。

(3) 任国で調達した方がよい衣料

特に調達した方がよいという物はないが、布地を好みのデザインに仕立ててもらっている人も多く、一般に注文服の方が既成服より安価である。(ただし、服のできあがりとは別問題)

(4) その他の留意点

各スーパー、商店は大型のバーゲンセールを年に1～2回実施している。日本のバーゲンとは異なり、高級品も含め、セール開始と同時にあらゆる品が、15～40%も突然値下げられるので、高級品購入のチャンスでもある。

2-2 礼 装

(1) パーティ

公式行事、その他各種行事においても、男性はダークスーツがあれば十分である。

女性はワンピース、ツーピースを着用する。ロングドレスあるいは、それに準ずる服が 1～2着あってもよいが、なくて困ることはない。

(2) 式 典

パーティに準ずる。

(3) その他の冠婚葬祭

こちらでの結婚式の披露パーティは、男女別々であり、花嫁は男性の前に姿をあらわさない。

(4) その他の留意点

特に、日本から持参した方がよい礼服はないが、パーティに出席する機会も多いので、気に入ったものがあれば持参するとよい。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗 濯

各家庭では洗濯機とアイロンを使っている。両方とも、現地で調達可能である。

クリーニング店は街中いたるところにあるが、大手スーパーかホテルのお店が、一応安心できる。

(2) 仕立て、修繕

仕立て、修繕は市内にたくさんのテーラーがあり、オーダーできる。

紳士服は、500リアル程度で仕立てられ、仕上りもまずまずである。

婦人服はデザイン画、雑誌の切りぬきを持って行って頼むが、仮縫いをしないので、ボタンや裏地についても事細かに指示することが必要である。

(3) 保 管

保管は、ナフタリンを洋服ダンスに入れておくのが望ましい。

ナフタリンはスーパーマーケットで入手可能である。種類も何種類か揃っている。

3. 住 宅
3-1 住宅事情

(1) 一般事情

カタルのホテル事情は、きわめて良好で、簡単に予約を取ることができる。

第1級のホテルとしては、シェラトンホテル、ガルフホテルがある。日本人がよく利用しているホテルはラマダホテルである。

一般住宅としては、ここ2～3年賃貸用家屋の建築が増え、従来タイトであった外国人向け住宅供給も、比較的緩やかになってきた。しかし、近頃カタル石油公社が大量にビラをおさえたため、楽観するわけにはいかない状況である。

当地在留の日本人は、ほとんどが独立家屋に入居しており、アパートは適当なものがきわめて少ない。

(2) ホテル事情

表1

(単位：カタル・リアル)

ホテル名	TEL	住 所	宿泊料
シェラトンホテル	833833	P. O. Box 6000, Doha	S 350 W 450
ガルフホテル	432432	P. O. Box 1911, Doha	S 300 W 400
ラマダホテル	417417	P. O. Box 1768, Doha	S 300 W 350
ソフィテルドーハパレス	435222	P. O. Box 7566, Doha	S 300 W 350
オアシスホテル	424424	P. O. Box 712, Doha	S 250 W 300
シェザンホテル	865225	P. O. Box 5616, Doha	S 200 W 250

(3) 住宅の探し方

不動産業者、新聞広告、紹介などの情報により、各自で適当な物件を探すことになる。

当地の日本人が多く住んでいる住宅は、次のとおりである。

JBKビラ TEL 884845

アルメシーラビラ TEL 874337

(4) 住宅の選定上の留意点

新築住宅は、まだ家賃も高く、市の周辺部では電話の敷設に時間がかかったり、一見立派な新興住宅街に見えても、ちょっとした買い物に不便だったりす

る。

一方、既存の住宅は厳しい自然条件と、維持管理の悪さから老朽化がきわめて早く、築後 4～5 年の家屋でも入居後、さまざまなトラブルが発生することが多い。したがって、家賃、広さ、環境などすべてを満足させるよい家を確保することは、決して容易ではない。

また、独立した一軒家よりも、入居後のメンテナンスのいきとどいたコンパウンドの方が無難である。

入居前に必ず、貯水タンクの機能をはじめ、水道やガスの配管にもれはないか、雨漏りはないか、日当りは十分かなどは、チェックするべきである。

(5) 住宅の契約

家賃は最近、やや下降し始めてはいるが、比較的新しい独立家屋は、2 寝室の小さいものでも月額 8,000 リアル（約 2,200 ドル）程度であり、大体 10,000 リアルから上とみてよい。

契約条件（家賃）に関しては、2 年契約で、1 年分前払いが慣習化しているが、交渉次第では毎月払いも可能である。

また、契約書にサインする前に、納得いかない点があれば、よく話し合うことが大事である。

(6) 居住上必要な事項

家具なし契約が一般的であるが、交渉次第では、電気製品を含めた家具付き契約も可能である。日本人の場合、家具付き契約が多いように見える。

家具類はたいいていのものは、当地で購入できるが、全体的に大型で派手なものが多く、中級以上はすべてヨーロッパからの輸入のため、価格も割高である。

(7) その他

家賃の差は家具の質や付帯条件の差なので、家具の色の統一や、食器などのこまかい注文は、契約時に交渉する。

4. 医 療

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

カタール特有の風土病はない。種痘を含め予防接種は不要であるが、海岸に行く機会が多いので、破傷風の予防接種は受けておいた方がよい。

(2) その他の準備

家庭用の救急箱にあるような風邪薬、抗生物質、目薬、虫さされ用のぬり薬、消毒液、下痢止め、整腸剤などの薬、また、体温計、氷のう、アイスノンなどは用意しておいた方がよい。

その他のもので、眼鏡はこちらで 300リアルくらいで作れるが、かなり度を強くするので手持ちの眼鏡を持参し、同じものを作ってもらうのがよいようである。

コンタクトレンズは、現地で調達不可能であるが、保存液などの付属品は購入できる。

歯科医に関しては、ヘルスセンター（国立）とプライベートと両方ある。

日本人がよく利用しているプライベートは、イギリス人医師で評判がよいが、かなり高い。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

カタールには各地区にあるヘルスセンターと、最新の設備をほこる国立ハマド総合病院（Hamad General Hospital）がある。

ハマド総合病院の医療水準は、アメリカ人医師の採用などにより急速に向上しつつあるといわれているが、看護婦の水準が追いつかないこともあって、当たりはずれがあることは否めない。ヘルスセンター、ハマド総合病院で治療を受ける限り無料であるが、有料の個人営業の医師も若干いる。

複雑な病気は先進国で治療を受けることが適当であり、慢性の持病などがある場合も、できる限り治療をすませたうえで赴任することが望ましい。ただし、独立後15年の開発途上国にしては、医療制度が整っており、通常の病気などはカタールで十分な治療が可能と思われるので、医療に不安を抱く必要はない。

なお、ヘルスセンターを利用するには、受付で登録し、カードを発行してもらい、診療のたびにそのカードを持参する。

(2) 緊急時の対応と措置

ヘルスセンターの中のひとつである、モンタザヘルスセンターは24時間診療可能であり、かなり重い場合はハマド総合病院の救急窓口で診療してもらえる。

4-3 医薬品など

(1) 携行することが望ましい医薬品

ほとんどの外国製医薬品はカタールで入手可能であるが、人によっては強すぎる場合もある。

使い慣れた風邪薬、整腸剤、抗生物質、消毒薬、消炎鎮痛貼布剤（いわゆるトクホンなど）や、常用の薬は幼児用も含めて持参した方がよい。氷のうや体

温計も用意した方がよい。

(2) 任国で調達できる医薬品

相当なものが市場に出回っている。風邪薬や抗生物質など種類も多い。現地の薬を服用する場合は、自分に合った量を服用することが望ましい。

(3) 任国で調達できる衛生用品

生理用品、ナプキンは入手可能であるが、日本人にとっては大きすぎるので、気になる人は持参した方がよい。

また、バンドエイド、綿棒、包帯は安く購入できる。

石けん、ハンドクリーム、ローションなども多種そろっている。

(4) 医薬品を使用する場合の留意点

特別神経質になる必要はないと思うが、服用量、有効期間などは、自分でチェックすることが望ましい。

4-4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

出産に関しては、日本人はカタルの医療に対する不安、言葉の問題もあり、一時帰国しているが、ヨーロッパ人は、カタルで出産している例が多い。近年はカタルで出産する日本人女性もいる。

妊娠した場合、日本のように早期には検査をしてもらえないので、薬局で試薬を購入し、自分で確認し、検査をしてもらえる時期を待つことになる。

新しく国立の産婦人科 (Woman's Hospital) もでき、施設も整っているが、アラブ人女性との体格の差や、乳幼児の死亡率がかなり高い点からも、初産の人にとっては不安が残る。

(2) 出産後の対応

乳幼児の死亡率が高いということで、出産後の対応にはやはり不安が残る。しかし、乳児の予防接種は、カタルのシステムで実施されており、無料で受けることができる。

(3) 育児

育児用品は、ほとんどカタルで調達可能である。ミルク、紙おむつ、哺乳瓶、ベビーパウダーなどは手に入るが、ミルクは日本のものと味がちがうので、受けつけない乳児もいる。

また、ベビーベッドやベビーカーも多種そろっており、日本から持参する必要はないが、おむつカバーは必要である。

4-5 手術

(1) 任国で可能な手術

国立ハマド総合病院には、かなりの設備があり、問題はないと思うが、言葉の問題もあり、急を要する手術でなければ、日本に帰国して手術した方が無難である。

(2) 手術設備の状況

国立ハマド総合病院は、欧米の一流病院に劣らず立派な設備をもっており、入院に関しても特に問題はないようである。

(3) その他の留意点

手術をする場合の輸血で問題になるのは、何ととってもエイズをはじめ、いろいろな病気の感染である。

外国人は、在留許可を取得するために、エイズ検査が行なわれる（主に男性だが、職業によっては女性も）ので、外国人に関しては一応問題はないと思われる。

4-6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

ドーハに到着して、しばらく下痢に悩まされる人があるが、これは水質の変化によるものと思われ、心配はない。

一般に衛生状態は、よいようである。

(2) 風土病・伝染病

カタルに風土病・伝染病はない。

(3) 有害動物、病害虫

夏になると、家の内外を問わず、よくヤモリをみかける。家の中に糞をするという点のをのぞけば、特に問題はない。ヤモリ、ゴキブリは少ないようである。

蚊、ハエもそれほど多くはないが、ネズミはまだ多く見られ、家の中の排水溝をしっかりとめておかないと、家の中までネズミが入ってくることもある。

4-7 保健衛生

(1) 飲料水

ドーハにはイタリア、イギリス、日本の作った蒸留装置が12基並び、ドーハの街の70%をまかなっている。

カタルの街の中の蛇口からとった水を、日本で分析したところ、カルシウムが極端に少ないが、非常に清潔であるという結果が出たそうである。

しかし、肝心の各家庭のタンクや水道管が汚れているため、ときどき水が濁ったり、不純物を含んでいたりすることがあるので水道水を煮沸するか、ミネラルウォーターを使用することが望ましい。

(2) 濾過器の入手法

カタルで調達可能であるが、スペアフィルターは一度切れると、いつ入荷するかわからないので、ある時に購入しておくといよい。

(3) その他の留意点

- ・排水溝のフタはしっかりと締め、あきそうであれば上からおもしを置く。
- ・生水は飲まない。
- ・魚や肉はできるだけ火を通し、生野菜はよく洗う。
- ・庭の雑草は定期的に刈り、蚊の発生を防ぐ。

5. 教 育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

カタルの学校制度は、6・3・3・4制で、1977年にはカタル大学（国立）が開校され、教育、理学、人文社会、イスラム法、イスラム学などの学部を有している。

教育は無償であり、欧米には多数のカタル人大学生が留学している。

日本人学校も、1979年4月にカタル日本人会により、ドーハ市内に設置されている。

(2) 日本人学校

現在日本人学校の生徒数は、小学生13名、中学生2名の計15名で、教員は日本からの派遣教員6名、英会話講師（イギリス人）2名、現地採用教員（家庭科）1名の計9名である。

日本人学校は、日本人の多くが住んでいるJ BKコンパウンドを貸りて、教育を行なっている。

(3) 現地校、外国人学校

カタルにはイギリス系の学校があるが、授業についていけるだけの英語力が必要である。また、アメリカンスクールも開校されている。

(4) 幼稚園

幼稚園児については、イギリス人経営の幼稚園に通園させることが可能である。

日本人の幼稚園児は、カタル・インターナショナル・プレスクールに通園している。また、おむつのとれてない子供でも預かってくれる施設もあり、利用している日本人もいるようである。

5-2 入学手続および授業料

(1) 日本人学校

入学手続（必要な書類）

簡単な面接および家庭調査票などの記入

- ・在学証明書
- ・指導要録の写し
- ・健康診断票
- ・歯科検査票
- ・教科書給与証明書

入学金・授業料

入学金 900リアル

授業料 月額 700リアル

通学手段

スクールバス 月額 100リアル

休校日

夏季休暇 7/16～ 8/31

冬季休暇 12/29～ 1/ 6

春季休暇 3/16～ 4/10

(2) 現地校、外国人学校

この項未調査。

(3) 幼稚園

入学手続（必要な書類）

簡単な調査票の記入

入学金・授業料

入学金 100リアル

授業料 500リアル

通学手段

各自の方法で

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

National Libraryのほか、いくつかの図書館がある。また、シェラトンホテルの一室（Japanese Lounge）には、帰国する日本人が寄付していった本が集められており、いつでも貸し出しができる。

(2) スポーツ施設

各コンパウンドには、プールやテニスコートの設備があり、よく利用されている。また、ホテルやクラブの会員になっている日本人も多く、そのプールやコートを利用する子弟もいる。

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

英語の個人レッスンは、イギリス人に受けることになるが、カタルで英語の個人レッスンを受けている子弟は、ほとんどいないようである。

(2) 通信教育

通信教育を行なっている日本の機関に連絡し、手続をすれば受けることができる。

(3) 携行した方がよい家庭用学習教材

日本語の問題集は、現地では手に入らないので、持参した方がよい。

文房具は、質にこだわらなければ何でも入手できる。

6. 家庭の使用人

6-1 一般事情

カタルでは入国制限がきわめて厳しく、個人が新しく外国から使用人を連れて行くことは、カタル人外交官、医師など特別な職業の者に限られているばかりでなく、査証手続の面で大きな困難を伴う。しかし、すでに在留許可を所持している者の雇用は、スポンサーの変更手続のみで可能である。

また、カタル国内法上、雇用者は雇用契約終了後、責任をもって使用人を出国させる義務があることに注意すべきである。

6-2 運転手

(1) 雇用

個人で運転手を雇っている日本人は少ない。

カタルで運転手を雇う場合、英語が比較的よく通じるインド人、フィリピン人が中心であるが、パキスタン人の場合も多い。

給与は、月額およそ 1,000～1,500リアル程度であるが、条件により異なる。

(2) 日常管理

定期的に車の点検をするように心がけさせるべきである。特にバッテリー液の補充を忘れないようにさせる。

(3) 教育指導

日頃から、運転手には安全運転の指導を心がけるべきである。

運転があらっぽくスピードを出しているうえに、基本的なことが守られていないので、事故が起きやすい。一番驚くのは、方向指示器を点滅せずに右折したり、車線変更をしたりすることである。

(4) その他の留意点

カタル人（特に女性）相手に事故をおこすと、大変めんどうなことになるので、よく心がけておく。

6-3 メイド／サーバント

(1) 仕事の種類と人数

カタルの日本人家庭で、メイドを雇っている家庭はないが、商社の所長クラスの家ではサーバントやコックがいる。

子供のいる家庭では、子守りのためにベビーシッターを雇っているところもある。子守りは、イギリス人婦人がアルバイトでやっている場合もある。

カタル人の家庭では、メイドを雇っているところが多く、メイドのほとんどは、フィリピン人かインド人である。

(2) 雇用

知人の紹介か、新聞の求人広告などでみつけているようである。

(3) 日常管理

日本人とは衛生観念がちがうので、毎日の生活の中で十分注意し、常に衛生的な生活をするよう、指導することが大切である。

6-4 庭師、ガードマンなどの雇用

(1) 雇用

日本人のほとんどは、一戸建てに住んでいるので、庭師を雇っている。
庭師の仕事は、水やりや草花を植えることである。日本人同士で紹介しあつて、庭師を雇っているが、人によって能力にかなり差があるようである。庭師は、インド人、パキスタン人、イラン人などで、あまり英語は通じない。
1ヵ月の賃金は、大体 250～ 500リアルである。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

カタルに鉄道はない。バスは近郊路線、中・長距離路線とも、あることはあるが、乗客のほとんどはインド人、パキスタン人、フィリピン人、スーダン人などである。料金は1～3リアル程度である。

カタルではタクシーの利用度が高い。タクシー料金はメーター制で、基本料金は乗車した時点で2リアル、その後200メートルごとに0.1リアルあがる。ただし、タクシードライバーは、片言の英語しか話せない外国人が多いうえ、いまだ、正式な通りの名称・番地が普及していないので、正確な行き場所を指示することは難しい。

市内観光をする場合は、1時間20リアルがだいたいの相場である。また、タクシーの目印は、車体がオレンジ色と白色のツートンカラーで、黄色のナンバープレート、屋根にはTAXIと付されている。

街中をながしているタクシーの運転手には、土地勘の乏しいものが多く、ホテルなどに停車中の車を利用した方が安心である。また、自分が宿泊客であれば、そのホテルからタクシーを呼び出してもらえる。空港からドーハ市内までは、約15リアルである。

欧米人女性は、タクシーをそれなりに利用しているようであるが、女性ひとりの利用はできるだけ避けた方がよい。

(2) 自家用車を利用する場合

車両は右側通行であり、交差点はほとんど、ランダバウト (round about) と呼ばれるロータリー式なので、慣れるまで注意しなければならない。

(3) レンタカーなどを利用する場合

ドーハ市内には以下のレンタカー会社がある。

AVIS Rent-A-Car	TEL 447766
Al Khaleej Rent-A-Car	TEL 413142
Al Nouaimi Rent-A-Car	TEL 871637
Budget Rent-A-Car	TEL 419500/1/2
Inter Rent	TEL 429753
Mustafawi Rent-A-Car	TEL 671007
National Motors Hire Service	TEL 413190
Rent-A-Car Al-Muftah	TEL 328100
Tir Star Self Drive	TEL 323588

(4) 道路地図

市内の書店で、何種類かの道路地図を入手できる。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

カタルでは、かなりのスピードを出しているうえに、交通マナーも悪いため、自分が安全運転をしているからといって、安心できない。

シートベルトを着用し、慎重に運転をすると同時に、車を頻繁に点検することが必要である。

また、郊外では、ラクダとの衝突に注意が必要である。

(2) 救急病院

ドーハ市内で、救急設備があるのは、国立ハマド総合病院である。

ハマド総合病院 電話 446446

(3) 盗難

カタルで、盗難にあった例はほとんどないようである。しかし、車から降りる際に貴重品は持っていくこと、長期間留守をする時は、バッテリーを外しておくこと、駐車場以外の場所には駐車しないようにすることなどは、実施した方がよい。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

カタルは右側通行であり、左ハンドルの車がほとんどである。

ランダバウトでは、左折の場合は左端を、右折の場合は右端を走行するのがルールであるが、守らない車が多いため、接触事故が多い。

また、カタルではスピード違反の取締りはほとんどないが、駐車違反の取締りはかなり厳しい。

郊外へ行くと、「ラクダに注意」というような標識もある。

(2) 対処方法

駐車違反の場合、キップを切られ、警察に出頭しなければならない。

また、カタルで運転する際、方向指示器を点滅せずに、いきなり車線変更してくる車が多いので、車間距離をあけておくことが望ましい。

7-4 車の修理

(1) 部品

日本車の場合、販売店が修理工場を持っており、必要な部品はほとんど入手可能である。しかし、特別な部品が必要な場合は、取り寄せてもらうことになり、かなり時間がかかるので、注意しなければならない。

(2) 修理工場

トヨタ、ニッサン、マツダなど、かなりの数の工場があり、修理内容も総体的に信用できるようである。

8. 通 信

8-1 電 話

(1) 一般事情

カタルの電話事情は非常によく、ほとんどの家庭に普及している。
なお、在留許可がとれないと、電話を設置することができない。
生活に必要な電話番号は以下のとおりである。

警察・消防・救急車	999
電話番号案内	180
国際電話	150 (予約)
	190 (照会)

(2) 国内電話

国内での電話料金はすべて無料であり、6ケタの電話番号をまわせばよい。
公衆電話の利用にも、コインを用意する必要はない。

(3) 国際電話

国際電話に関しても、電話事情は非常によく、日本を含む主要各国との間で、ダイヤル直通となっている。

日本にかける場合、日本のカントリーコード「081」をまわし、続けて日本の地方局番の最初の「0」を取った番号、そして相手の電話番号をまわせばよい。

日本までの直通電話料金は、通常1分間13リアルであり、休日、早朝、夜間（夜8時から朝7時まで）は、1分間9リアルである。

日本からダイヤル直通でカタルに電話をかけるときは、「001・974」のあとに相手先の電話番号（6桁）をまわせばよい。最近では、日本からカタルへかける方が、電話料金が安いようである。

8-2 電 信

(1) テレックス

テレックスに関して、特に問題はないが、アラビア語、英語、フランス語以外は受けつけられない。

(2) ファクシミリ

端末の数がまだ少ない。
カタルと日本の間の通信は問題ない。

(3) 電 報

電報は、ドーハ市内のQ-TEL 社 (Qatar Telecommunication Department) でのみ、打つことができる。

ただし、アラビア語、英語、フランス語以外は暗号とみなされ、受けつけられない。

8-3 郵 便

(1) 一般事情

郵便切手は、郵便局または書店で購入できる。郵便局の営業時間は次のとおりである。

ドーハ空港 24時間
一般郵便局 7:30~12:00、16:00~18:00
また、日本への航空郵便料金は次のとおりである。

絵はがき 1.5リアル
航空書簡 1リアル
封書 2リアル (10グラムまで、以後10グラムごと 2リアル)

日本とカタル間の航空郵便は、通常 1週間程度で着き、特に問題はない。カタルはすべてP.O. Box 制である。

小包は10キログラムまでで、航空便と船便がある。

船便は、数ヵ月で着くが、まれに半年近く要することもある。急を要する品物および夏季に食料品を船便で送ることは、やめた方がよい。

また、カタルには郵便検閲制度があり、そのために日本からの郵便などは到着が遅れることがある。特に小包の検閲は厳しく、イスラムの精神に反するような書籍・雑誌、酒類などは、禁止されている。

検閲を受けたビデオテープは、後日、引き取りに行かなければならない。

なお、緊急に書類、荷物を外国へ送りたい時は空港のそばのDHL (電話 434203) を利用するとよい。料金は高いが、早く確実に先方に届く。

(2) 課 税

免税については、カタルは輸入関税が低く (通常 4%)、諸外国と比較して、高級輸入品も安い。いわゆるPersonal Effectsの通関は無関税か、それに近いので、あまり心配はいらない。

9. マスコミ

9-1 新聞

(1) 主な日刊紙

地元紙としては、英語日刊紙『ガルフタイムズ』、アラビア語日刊紙『アッラーヤ』、『アル・アラブ』、『アル・シャルク』がある。

いずれも1部、1～2リアルで、市内の書店や路上で販売されている。

アル・アラブ 政治問題が中心のアラビア語日刊紙

アッラーヤ アル・アラブよりは少しやわらかい感じの親日的アラビア語日刊紙

ガルフタイムズ アッラーヤの姉妹版でカタール在住の欧米人を対象とした英語日刊紙

(2) 本邦日刊紙

OCS（海外新聞普及協会）のロンドン支店が朝日新聞の国際衛星版を取り扱っている。

3ヵ月ごとに、購読料を支払う。日本での申し込みは電話 03-5476-8131である。なお、シェラトンホテルのジャパニーズラウンジで読むことができる。

(3) 欧米紙

主だったイギリス、アメリカの新聞が手に入る。

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

アラビア語放送は、早朝（午前6時頃）から放送されている。また、英語のFM放送も朝から放送されており、日本人もよく聞いている。

その他、バーレーン、アブダビ、ドバイなど近隣各国の放送も受信可能である。

(2) ラジオジャパン

1日に4回、NHKの短波放送を聞くことができる。高性能ラジオでアンテナを張れば、よく入るが、日によって聞きづらいこともある。

(3) 任国で聴取可能なその他の外国放送

BBC放送など、いくつかの外国放送が受信可能である。

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

テレビについては、英語とアラビア語の国営放送が、それぞれ1局ずつある。

アラビア語放送は15:00から、英語放送は17:00から放送されている。しかし、サラート（礼拝）の時間になると、すべての放送が中断される。

放送内容は、ニュース、子供向け番組、ドラマ・映画、スポーツ中継が中心である。

また、アンテナを高くすれば、ドバイ、バーレーン、アラムコなどのテレビ番組も見ることができる。

(2) テレビ受信

カタールでは、テレビのカラー受像方式はPALを採用しており、日本からテ

レビ受信機を持参しても、こちらのテレビ放送を見ることはできない。

10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

10-1 映画、演劇

(1) 映画館

現在、ドーハ市内には映画館が 3 館あり、1 館は主として英語、ほかの 2 館は主としてインド映画がアラビア語のサブタイトルつきで、上映されている。

また、1年に 2回、日本人会主催の日本映画観賞会があり、日本人にとっては楽しみな催しである。

(2) 劇場

ホテルではときどき外国の劇団による演劇がある。

10-2 出版・書籍

(1) 一般事情

カタルの書店では、全アラブ諸国の新聞、雑誌が売られている。カタルで発行されている雑誌には『アル・アハド』、『アル・サクル』などのアラビア語誌がある。

また、「Times」や「News Week」などの欧米の雑誌も購入することができる。しかし、検閲が厳しく、宗教上好ましくないと判断された写真（女性の水着など）や、イスラム教に反する記事は、削除されていることもしばしばある。

(2) 書店

ドーハ市内には、以下の書店がある。

Family Book Shop 英語の本を扱う最大の店で、リングフォンもある。

Arabian Book Shop アラビア語の本は、ほとんど手に入る。

また、その他、市内のスーパーマーケットの中にも書籍のコーナーがあり、ある程度のものであれば、購入できる。

10-3 語学学習

(1) 語学学習施設

カタルでは、ブリティッシュカウンシルで英語とアラビア語、フランス文化センターでフランス語とアラビア語、アメリカ文化センターでTOEFL 受験用のレッスンをそれぞれ受講することが可能である。

このほか、教育省付属のLanguage Instituteがあり、政府系職員および外交団のために、アラビア語、英語、フランス語の授業が行なわれている。

ちなみに、ブリティッシュカウンシルの場合、英語クラスはレベル別に 8 段階に分れており、授業料は週 2～3回、10週間で 900リアルである。

(2) 家庭教師

英語の場合はイギリス人、アラビア語はエジプト人、パレスチナ人に個人教授を頼むことができる。

日本人同士で紹介しあったり、ブリティッシュカウンシルの掲示板に求人広告を出したりして、教師をみつけており、英会話の個人教授を頼んでいる日本人女性も多い。

授業料は、1時間あたり 100リアルというのが相場のようなのである。

10-4 文化活動、文化施設

(1) 一般事情

ドーハ湾に沿って走る湾岸道路沿いにある博物館が、カタール国立博物館で、イスラム近代建築の白塗りの建物が非常にきれいである。カタールの歴史、伝統、文化についての豊富な資料が展示されており、この中には水族館もある。

また、一軒の家をそのまま博物館にかえた、カタール民族博物館は、井戸、台所、女性の部屋、家畜の部屋などカタール人の生活の場を見ることができる。

カタール唯一の動物園は、珍種はいないが園内の造りが日本の動物園とはちがった雰囲気をもっている。

ドーハから北西に約50キロメートル行った所には、オリックス（アラビアオリックスというカタールにしかいない動物）を政府の管理で飼育している公園がある。入園には、農業開発局の許可が必要である。

(2) 日本・任国友好協会などの有無と活動の内容

1984年4月、首長の訪日を機に設立された、日本・カタール合同委員会があり、85年にはドーハにおいて、88年には東京において開催されている。

また、さまざまなスポーツ使節やピアニスト、凧やこまの専門家の訪問もあり、文化、スポーツ面での交流がなされている。

(3) その他の文化活動、文化施設

2年に1度、ドーハ市内のシェラトンホテルにおいて、シェラトンホテル主催の「日本週間」が開催される。日本から、茶道や華道などの先生も訪問し、カタールの人々に日本の文化を紹介する。凧あげ、輪投げなどの催しも好評である。

10-5 写真、ビデオ

(1) 写真

フィルムは、フジカラー、コダック、サクラなどそろっており、24枚撮りで8リアルである。

現像は、1時間でできる店もあり、絵ハガキのサイズで1枚1リアルである。裏に切手を貼れば絵ハガキにもなるので、日本人には好評のようである。

カメラ用の小物も、多種そろっており、調達可能である。

(2) ビデオセット

ビデオは現地で調達可能である。ナショナル、シャープ、サンヨーなどが、セールをするので、その時に購入すればかなり安い。カタールはVHSとβの両方式があるが、βの方が多いようである。

最近では映画ビデオのレンタルが盛んで、市内には取扱い店がたくさんあるが、ここでも宗教的検閲が厳しく、宗教上好ましくないシーンはカットされている。

日本からビデオを送付する際、一度にまとめて送ると検閲され、到着まで2～3週間要することもあるので、2本ずつ程度にした方がよい。

(3) ミュージックテープ

街のいたる所にミュージックテープを扱っている店がある。英語のテープや

アラビア語のテープがあり、どれも安い。

琵琶に似たウードの音やベリーダンスの曲は、アラブ独特のものである。

10-6 音楽鑑賞、演奏、民族楽器

(1) 音楽会、コンサート

アラブ音楽のコンサートは、ときどき行なわれているようであるが、その他のコンサートは少ない。

(2) コーラス、演奏グループ

ホテルによって専属バンドを持っているところもあり、ときどき日本の歌を歌ったり、演奏したりしている。

(3) ピアノなど

ピアノは現地で購入できるが、日本から持込んでいる人もいる。しかし、現地で調律師を見つけるのは難しいようである。

また、ピアノの家庭教師を見つけるのは可能であり、イギリス人教師に習っている日本人子弟もいる。

(4) レコード

レコードやCDは、カタールで一番大きなデパートであるセンターでしか扱っていない。

(5) 民族楽器

カタールで代表的なものといえば、5本弦の、琵琶のようなアラビックウードである。

(6) その他の楽器

ウード以外では、1本の弦しかなく、ひざの上において弾く「ルーバーバー」、フルートのような楽器の「ナン」がある。

スポーツの応援の際によく使う、太鼓のような「タブル」、タンバリンのような「ターラ」、弦が無数にあり、ハープによく似た「カーヌン」などがカタールにおける楽器としては、代表的である。

また、キーボードのある楽器も、現地で購入可能である。

10-7 手芸、絵画、美術工芸

(1) 手芸

カタールは娯楽が少ないせいか、余暇を利用して手芸をする日本人女性も少ない。

大きなスーパーマーケットに行けば、毛糸、刺しゅう糸、ビーズ、スパンコール、レース、ファスナー、ボタン、かぎ針、編み棒なども調達可能である。

年2回のセールを利用すれば、上質の毛糸でもかなり安く買うことができる。また、色も豊富である。

ただし、かぎ針や編み棒などはあまり種類がなく、ほしいサイズのもので手に入らないことも多いので、ある程度持参した方がよいかもしれない。

また、小物を扱っている店は何軒かあるので、時間のある時に見てまわるのもおもしろい。

(2) 絵画、美術工芸

絵画を扱っている店は何軒もあり、アラブ独特の絵画もある。日本人もよく絵画を購入しているようである。

10-8 趣味

(1) 園芸

日本から、もやし、かいわれなどの種子を持って行き栽培している人もいる。また、野菜によっては、種子がこちらで調達可能なものもある。

観賞用植物は、市内の種苗店で入手でき、種類も豊富である。

(2) 釣り

魚が豊富にいるので、魚釣りが楽しめる。タイなどがよく釣れるようである。

10-9 娯楽、遊戯など

(1) 娯楽、遊戯、ゲーム

スポーツや美しい海岸へピクニックに行くことが、主な娯楽である。

また、禁酒国なので、戸外では酒が飲めないことから、個人の家に集まって飲み食いしながら、おしゃべりをするのも楽しみのひとつである。

午前中の暇な時間を利用して、麻雀やブリッジを楽しむ日本人女性も多い。

(2) 芸能興行

年に何回かサーカスの興行がある。

10-10 スポーツ

(1) ゴルフ

砂ゴルフではあるが、ゴルフ場が 2ヵ所あり、日本人会では夏季をのぞき、月例コンパが開かれている。

(2) テニス

市内には、設備のよいテニスコートを持つスポーツクラブがたくさんあり、利用している日本人も多い。

また、日本人が多く住んでいるコンパウンドにも、テニスコートの設備はある。

(3) 水泳

4~11月は水泳可能なシーズンである。各コンパウンドにプールはあるが、クラブの会員になり、ホテルなどのプールを利用している日本人もいる。

また、海水浴も盛んで、あちこちの海岸に出かける人も多いが、7月と8月は暑すぎるので、避けた方がよいかもしれない。

(4) その他のスポーツ、用具、ウェア

水泳シーズンには、ヨット、ウインドサーフィンなどのマリンスポーツが盛んである。

また、カタルではサッカーに人気があるため、設備の整った競技場がいくつもある。

ボーリング場は 3ヵ所あり、いずれも会員制である。毎月第 1金曜日には、日本人ボーリング大会がシェラトンホテルで行なわれている。

各種スポーツ・レジャー用品は、大型モーターボートを含めて、たいいていのものが、カタルで入手可能である。

(5) スポーツクラブなど

ドーハ市内にはドーハクラブをはじめ、ラマダホテルのキャバナクラブ、シェラトンホテルのクラブなど、スポーツクラブはたくさんある。しかし、希望者が多く、なかなか入会できないのが現状である。

会費はキャバナクラブでは、家族で入会した場合、入会金 1,500リアル、年間会費 3,000リアルである。

10-11 風俗営業

カタルはイスラム国であり、宗教はイスラム教の中でも戒律の厳しいワッハーブ派に属している。イスラムの戒律により各種の制約があり、風俗営業はない。

10-12 子供の遊び

子供用の玩具、乗り物などほとんど入手可能である。品質にこだわらなければ、スークでホンコン製の玩具が安く購入できる。

コンパウンドの中では、日本人の子供同士で行き来して遊んでいる。

11. その他のサービス

11-1 美容院

美容院は、ホテル内または、市内にいくつもある。美容師もフィリピン人、イギリス人、フランス人とさまざまで、予約制のところもある。

カット料金は30～100リアル、パーマ料金は120～200リアルくらいである。

11-2 理髪店

理髪店は、ホテル内、スーパー内をはじめ、市内のいたるところでみかける。料金はカットで10～70リアルくらいである。

また、街の理髪店の中には、英語の通じないところもある。

11-3 日本より持参した方がよい美容・理髪用品

シャンプー、リンス、整髪剤など、大体のものはこちらで調達できる。質はあまりよくないが、カーラー、ブラシ、ピンなどもある。

化粧品は、シャネル、ディオール、エリザベスアーデン、クリニーク、それに少しではあるが資生堂の化粧品もある。しかし、どのメーカーも色数が少なく、日本人の気に入る色は、なかなかみつからない。

12. 観 光

12-1 地方旅行上の留意点

カタルの国土面積は11,427平方キロメートルで、日本の100分の3、秋田県とほぼ同じである。また、南北の長さは約100キロメートル、東西の長さは80キロメートルである。したがって、1日あれば、カタルの端から端までドライブできる。

カタルでは、王宮、軍事施設、空港、種々の工場、スークなどの写真撮影は厳禁である。フィルム没収はもちろん、警察に連行される場合もある。記念写真の背景に偶然これらのものがあつた場合でも、警察にみつかり、面倒なことになるので、十分注意すること。

また、モスク、アラブ女性の撮影も避けたほうが無難である。女性をどうしても撮影したいという場合には、その女性の承諾を得てから写すようにしなければならない。

12-2 主要観光地・保養地ガイド

カタルを訪れようとする人は、現にカタルに在住する人と何らかの関係がないと入国できない仕組みになっている。その場合でも、通常は72時間しか滞在が認められず、しかも、パスポートを入国の際空港に預けたままになる。最近では、シェラトンホテルとガルフホテルがスポンサーになり、2週間の観光ビザがとれるようになったが、事前に手続が必要である。

カタルに観光地や保養地は少ないが、カタル在住の日本人が遊びに行くところには、次のようなところがある。

ドーハ市から南に約40キロメートルに位置するウムサイド郊外に、美しい砂浜の海岸がある。その背後に砂丘が続いており、休日には若者がジープで砂山にのぼっているのをよくみかける。

その他、冬季(11～3月)に、月3回の割合で、ラクダレースが催される。ドーハから西へ向かう道を車で約50分くらい離れた砂漠の中にあり、レースの開催日には多くの人達が集まり、賑わうようである。レースコースは一直線で、子供が騎手となって速さを競う。

12-3 旅 行

(1) 自動車

市内の道路はよく整備されており、自動車を運転する者にとっては大変走りやすいが、郊外に行くと道路の数が少ないため、思うように行きたい場所に行けない不便さがある。

また、郊外では、走行中にラクダが出てくることもあるので、注意しなければならない。

ガソリンスタンドはたくさんあり、便利である。

(2) バス

市内から郊外にむけての長距離バスもあり、料金は3リアルである。

降車希望の者は、側面のガラスを強くたたけば、車掌も了解の合図をたたきかえしてくる。英語は十分通じるが、日本人の利用客はいない。

(3) 鉄道
ない。

(4) 航空機

カタールには、国内航空路線はない。
ドーハ国際空港からは各国への路線がのびている。

12-4 エージェント

街なかには、Express（キャセイのエージェント）、Sky Line（JALのエージェント）、Ali Bin Ali（エアフランスのエージェント）など、かなりたくさんさんの旅行エージェントがある。

これらのエージェントは、交渉次第で価格が下がることがある。また、日本とちがい、頼めば、すぐ手続をしてくれるわけではない。そのことを頭に入れて、早めに対処する必要がある。

いくつかのエージェントを利用してみて、信頼できるエージェントを見つけることも、大事なことである。

12-5 ホテルなど宿泊施設の手配

ホテルの予約は、直接予約も可能であるし、エージェントを通じて予約してもよい。

エージェントを通すと、手数料をとられる。経費は、直接ホテルで支払うことになる。

エージェントを通す場合、確実に予約をしたかどうか、何回も念を押すことが必要である。

13. 治安、緊急時の心得

13-1 暴動、クーデターなど

(1) 緊急時の連絡

現在、カタールにおいて、暴動、クーデターなどの心配はまったくないが、緊急時には、日本大使館の指示に従って行動すること。

13-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況

カタールは小国で、国のすみずみまで警察の監視が行き届きやすいこともあり、治安はきわめてよい。

しかしながら、カタールには独身または単身男性や出稼ぎ労働者がいるためか、まれではあるが、過去に何件か女性が襲われた事件がある。

特に、夜間の女性単独での行動や、自動車の運転は、さし控えるべきである。また、昼間でもできるだけ、女性1人でタクシーを利用することは、避けるように心がける必要がある。

(2) 防犯対策

一般的治安のよさにもかかわらず、日本人の中には空き巣、こそ泥の被害にあった例がある。したがって、戸締りを厳重にし、現金など貴重品は、施錠できるところに保管する心がけが必要と思われる。

日本人の多くが住んでいるコンパウンドは、入り口に守衛がおり、コンパウンドの中に入る車をチェックするので、比較的安心であるが、夜間は照明をつけ、寝室のドアに鍵をかける習慣をつけることも大事である。

酒類は、外から見えない場所に保管しておいた方がよい。

(3) 被害時の心得

できるだけ早く警察に届けるとともに、日本大使館に連絡しなければならない。

カタールにおいては、カタール人の力は絶対であるので、配属先のカタール人と一緒に警察に行くのが望ましい。

緊急時の連絡先は以下のとおりである。

警察・消防・救急車	999
日本大使館	831224
ハマド総合病院	446446

13-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況

冬季には時おり雷雨があり、道路が水びたしになる程度で、カタールには地震、風水害の例は少ない。

火災に関しても、木造建築が少ないため、大火にはならないようである。

(2) 防災対策

火災時に備えて、各家庭に消火器を用意しておくこと。また貴重品、旅券などは一ヵ所にまとめておくことが必要である。

万が一に備えて、水や保存のきく缶詰などをある程度、日頃から用意してお

くことが望ましい。

(3) 被災時の心得

もし、このような災害にあったら、警察や消防署にすぐ連絡をとると同時に、日本大使館にも連絡する必要がある。

14. 出入国手続および帰国手続

14-1 入国時

(1) 空港施設概要

カタール入国の際の空港概略図は図 1 (47ページ) を参照されたい。

(2) 入国手続書類

入国カードは、機内で到着前に用紙を配布してくれるので、あらかじめ記入しておく。

検疫および税関については、口頭で返事をすればよい。

(3) 入国審査

記入した入国カードを旅券に添えて、審査官に提出する。GCC諸国の国民と外国人は、窓口が異なる。

カタールに入国するには、カタールに在住する人となんらかの関係がないと入国できない仕組みになっている。

カタール国内の日本企業関係に勤務するため赴任する場合は、在日カタール大使館で最高 3ヵ月程度有効なビザで入国し、現地でスポンサーを通じ NOC (No Objection Certificate) に切りかえるか、あるいは、初めから NOC を取得するかしなければならない。

空港で発給する一週間のビジネス・ビザ取得にも、あらかじめローカル・スポンサーのギャランティ・レターが必要である。

最近では、シェラトンホテルとガルフホテルがスポンサーになり、2週間の観光ビザが取れるようになったが、事前に手続が必要である。

また、カタールに長期間滞在するには、在留許可を取得しなければならない。手続(エイズ検査、胸部X線撮影、指紋押捺)には1ヵ月ほどかかり、パスポートサイズの写真が5~6枚ほど必要である。

なお、在留許可が取れないと、運転免許証、リカーパーミットの取得、電話の設置ができない。

家族を呼び寄せる手続には、戸籍謄本、写真、パスポートが必要である。

(4) 税関検査

麻薬、酒類、イスラムの精神に反するような書籍・雑誌などは禁止されている。

手荷物だけでなく、預けた荷物もX線を通される。ビデオテープは検閲のため、数日間空港に保管されることがある。

(5) 空港内での留意点

空港における写真撮影は厳禁であり、フィルム没収だけでなく、警察に連行される場合もあるので、十分気をつけなければいけない。

(6) 空港からのトランスポート

空港の入り口にタクシーが並んで待っている。カタールのタクシー料金はメーター制で、空港からドーハ市内まで約15リアルである。

(7) その他の留意点

ドーハ空港で西側各国通貨やトラベラーズチェックをカタール貨に自由に両替

できる。しかし、係員が礼拝のためいなくなってしまうこともしばしばあるので、注意しなくてはならない。

14-2 出国時

(1) 出国時の概要

出国の際のドーハ空港の概略図は、図 2 (48ページ) を参照されたい。

(2) 出国手続上の留意点

在留許可 (レジデント・パーミット) を持っていれば、出入国に制限はないが、在留許可をもっている者が出国する時にはスポンサーの出国許可証が必要である。

6ヵ月以上、国外にいる場合は、在留許可が無効となるので注意する必要がある。

また、空港で換金できないことがあるので、市内の銀行でカタル・リアルを外貨に両替しておいた方が安心である。

14-3 帰国手続

(1) 帰国時に必要な事務手続

出国するまでに在留許可をキャンセルし、出国許可証を取得しておくこと。キャンセルしないと、再度在留許可を取得するときにトラブルが発生する。

帰路変更の場合、JICA に必要書類を提出し、許可を得て、大使館で渡航先追加の手続をしてもらわなければならない。

(2) 車の処分

自動車売却する場合、知人に譲るか、仲買業者に相談するかの方法がある。新聞広告や、スーパーマーケットの掲示板等を通じて行なうことも可能である。

知人に譲る場合は問題はないが、広告やスーパーマーケットの掲示板を利用する場合、相手をよくみきわめる必要がある。また、カタルには、中古車スクも存在するが、あまり信用はおけない。

交通局で車の名義を変更する前に、保険の名義を変更する。手続には、兩名の免許証が必要である。

(3) 家財道具の処分

荷物が多い場合、船便のコンテナで輸送するのが望ましい。その場合、日本人がよく利用している、信用のおける業者に頼むようにする。

また、携行機材の返送は、必要書類を事業団に提出し、承認を受けなければならない。その場合、私物と別梱包にする必要がある。

(4) 住宅の明け渡し

家主への通知は、契約書によってさまざまである。明け渡しの際に、トラブルをおこさないためにも、契約時に家主とよく話し合い、必要事項は契約書に記載させることが必要である。

日本人の多くは台所用品の荷造りもあるため、出発の数日前にはホテルに移っているようである。

また、Q-TEL 社で電話のキャンセル手続を行なう。手続には、パスポート、パスポートのコピー、電話器 (レンタルの場合)、電話料金の支払い済証明が

必要であり、書類がととのっていれば、1時間ほどで手続がおわる。

(5) 銀行口座の閉鎖

外貨口座は全額を引出した時点で閉鎖となるので、手続は必要ない。

図 1

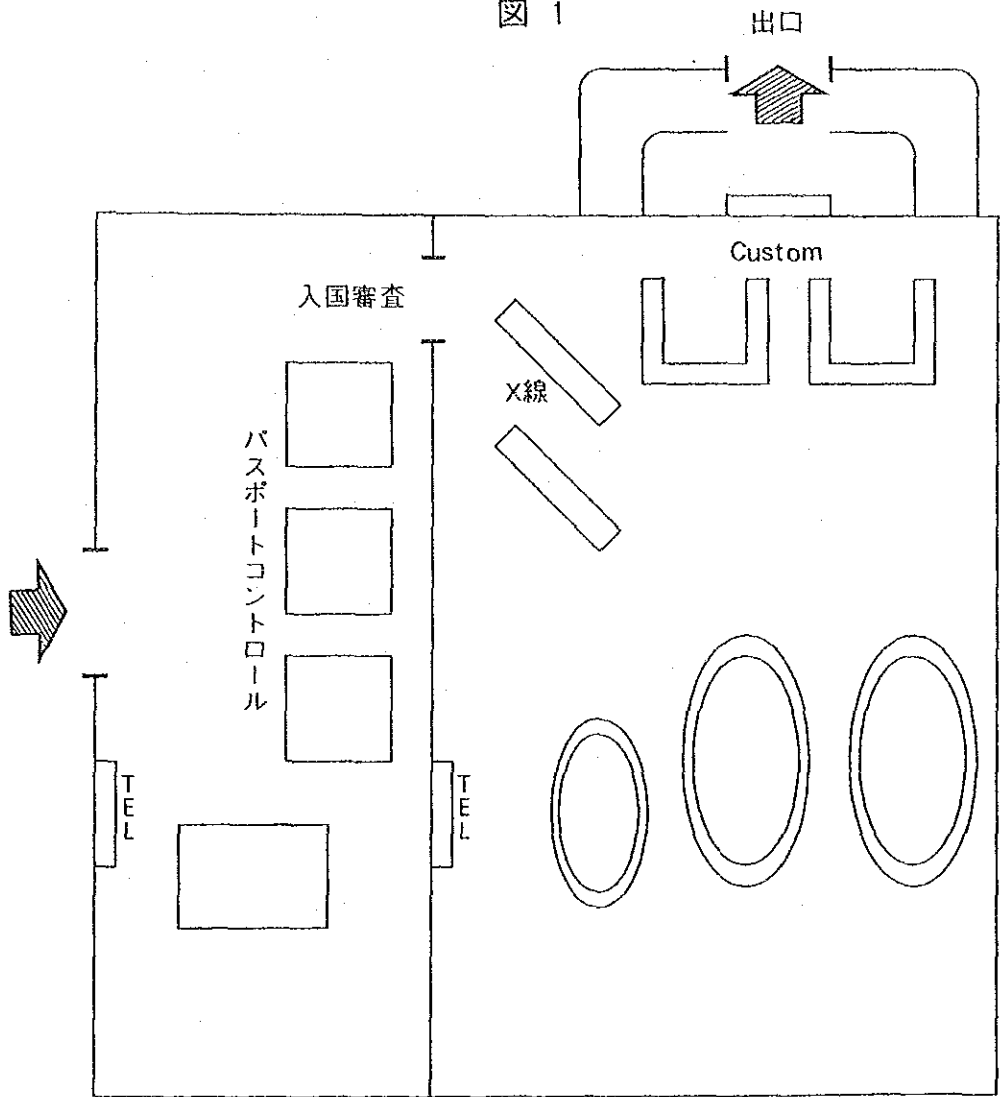
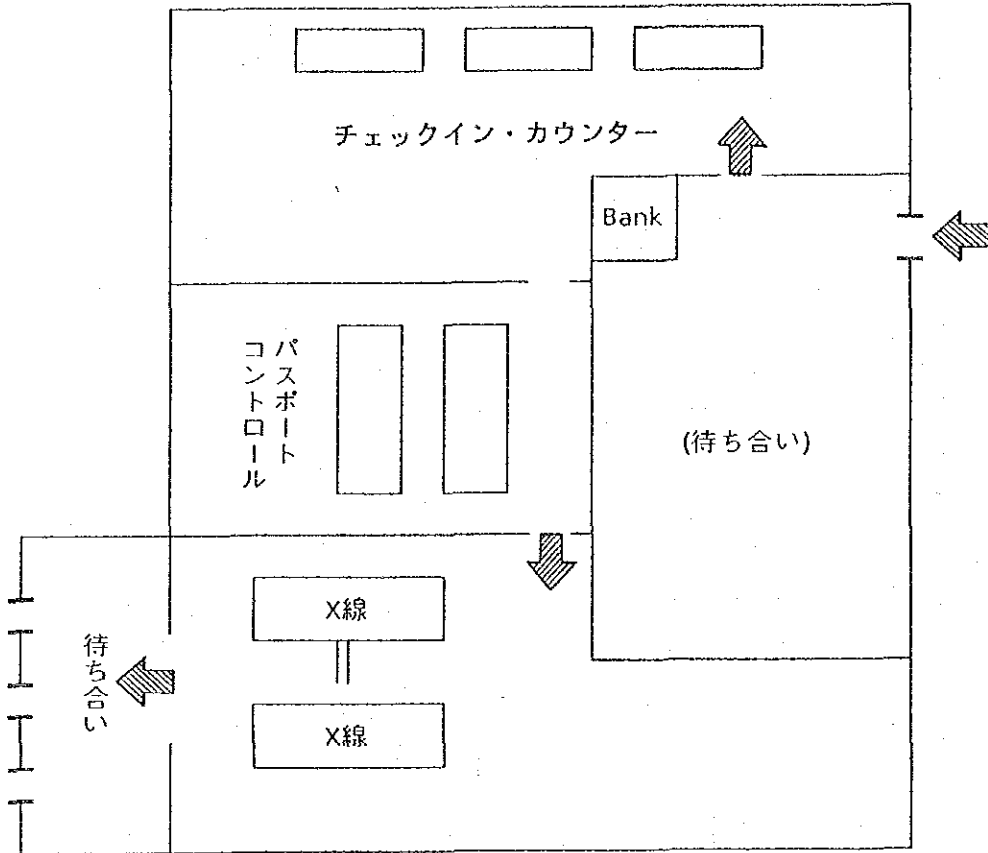


図 2



15. 私財の輸送、引き取り、購入

15-1 家財道具

(1) 輸送業者

カタルの主な輸送業者は、以下のとおりである。

Delma Freight Services	TEL	326992
Qatar National Navigation & Transport Co.	TEL	321175
Gulf Agency Co.	TEL	323594
International Freight Services	TEL	436870

(2) 輸入手続

家財の輸入は免税とされている。免税手続を行なうためには、赴任時にB/Lなど必要書類を持参しなければならない。

15-2 自動車

(1) 一般状況

カタル在住の日本人は、カタルで購入した日本車、欧米車を自家用車として使用している。

自動車を輸入する場合、若干の税金を支払うことになるが、輸入は自由である。

(2) 輸入手続

新車の場合、メーカーサイドが一式処理してくれる。通関手続、陸上輸送などは、地元運送業者に依頼すれば、すべて処理してくれる。

(3) 任国での購入

色、形、種類にこだわらなければ、日本車、ヨーロッパ車、アメリカ車など、店頭にある車をすぐに購入できる。在庫品の場合、発注後 2～3日で入手可能である。

ただし、自動車を購入するには、運転免許証を所持していることが条件となっているので、注意しなければならない。

また、中古車を購入する場合、信用できる相手から購入することが重要であり、中古車スークは前述のように、あまり信用できない。

(4) 自動車登録

必要書類は、Insurance Certificate、登録申請書、登録料の領収書、更新前の古い登録証（中古車の場合）などである。

車を受け取ると同時に交通局へ行き、登録と同時にナンバープレートを取りつけてくれる。

また、車のフロントガラスに貼られているステッカーは、毎年更新しなければならない。それをおこたると、更新時に課徴金をとられる。更新には、保険証書、車の登録証（小冊子）が必要である。

(5) 免許証取得

在留許可があれば、公用旅券保持者は、カタルの運転免許証を簡単な道路標識の試験と、適正検査（視力検査）のみで入手することが可能である。その場合は、日本の免許証が必要である。交通局で、道路標識の解説書を売っている

ので、事前に勉強しておくといよい。

しかし、一般旅券の者がカタルの運転免許証を取得するには、運転免許試験を受けなくてはならないことになっている。

カタルにおいて、国際免許は通用しない。

車の免許証用にはカラー写真が必要であるが、カタルで撮影すればよい。

(6) 保険、税金

自動車保険は強制保険となっている。日本と同じように対人、対物、自損など各種の組合わせと、無事故の場合、2回目から掛け金が割引かれる制度がある。

自動車の車種や使用年数にもよるが、もし、自分が事故をおこした場合、両方の車と、人間に対して補償する総合保険 (Comprehensive) であれば、年額 2,000リアル程度である。また、相手の車と人に対してのみ補償のある保険であれば、年額 300リアル程度である。

16. 社 交

16-1 風俗習慣

カタルはイスラム教の戒律により、かなり厳しい規制がある。禁酒政策のため、酒類の持込みは一切認められず、ホテルやレストランでの酒類のサービスはない。

また、イスラム教で豚肉を食べることが禁止されており、国内で豚肉は販売されていないし、持込みもできない。豚肉を使用した料理はもちろん、ハム、ソーセージ、ベーコンなど豚肉製品の販売も行なわれていない。

モスクやアラブ女性の撮影も避けた方が無難であり、女性をどうしても撮影したいという場合には、その女性の承諾を得てから写さなくてはならない。

カタル人の女性は、人前ではアバヤと称する黒いベールで顔を隠しているが、これは、夫以外の男性には素肌を見せないことになっているからであり、この点を日本人はよく理解し、頭において、カタル人と接するように心がけるべきである。

したがって、おおやけのパーティでも、男性だけが出席するケースが多く、たとえ男女混合のパーティであっても、カタル婦人が出席することはまずない。しかし、カタル人の夫人が催す女性だけの会合はある。

16-2 パーティでの留意点

アラブ人は誇り高き民族であるので、つきあう際には常に相手の宗教、風俗、習慣などを配慮することが大切であり、西欧や日本の考え方を押しつけることは禁物である。

要は、堅苦しいマナーよりも、気軽に相互に訪問し、できるだけ連絡、往來を絶やさないように努力することである。

16-3 来客時の留意点

一般的に酒類は、アラブ人、特に、カタル人に対してはすすめない方が無難である。

また、カタル人の夕食時間は、日本人に比べて遅いので、その点も考慮して招待することが大事である。

16-4 訪問時の留意点

カタル人を訪問する際は、男性のみか、あるいは、男女別々にわけられることが多い。また、自宅を訪問する際、特に初回は手土産を持参する習慣がある。

カタル人は、外国人との交際には比較的オープンではあるが、女性をまじえての交際は望むべくもないので、家庭に招かれても一般的には家族は同伴しない方がよい。

16-5 禁止されている言動

前述のように、イスラム教の戒律にしたがい、豚肉は食わず、また禁酒国であるので、カタル人の前ではこのような話をつつしむこと。

ラマダン月（断食月）には、日の出から日没まで食事、水、タバコなどは一切口にしないので、日中は公衆の面前、あるいは、屋外で飲食、喫煙することは避ける。

外国人に対してであっても、違反者には罰金が科せられるので、特に注意する必要がある。

また、敬けんなイスラム教徒は、1日5回のお祈りを欠かさない。このお祈りは、作法にのっとり行なわれ、戸外にあっては大地にひざまづき、遠くメッカを望みながら行なうことになっているので、お祈りの最中に声をかけたり、前を平気で横切ることのないように、注意しなくてはならない。

イスラム教は偶像崇拝を禁じていること、およびアラブ人女性に対するアラブ人男性の特殊な慣習もあり、屋外では特にベールを被った女性には気安く話しかけないようにしなくてはならない。

アラビア料理の食事の際は、手づかみで食べるのが正式とされているが、この場合、左手は不浄とされているので、右手だけを使用する。

17. 任国官公庁

住所とTEL は以下のとおりである。

国防省 (Ministry of Defence)

P.O. Box 37, Doha TEL 404111

教育省 (Ministry of Education)

P.O. Box 80, Doha TEL 413444

外務省 (Ministry of Foreign Affairs)

P.O. Box 250, Doha TEL 415000

内務省 (Ministry of Interior)

P.O. Box 2433, Doha TEL 330000

財政・石油省 (Ministry of Finance and Petroleum)

P.O. Box 83, Doha TEL 461444

経済・通商省 (Ministry of Economy and Commerce)

P.O. Box 1968, Doha TEL 434888

水・電気省 (Ministry of Water and Electricity)

P.O. Box 41, Doha TEL 326622

自治・農業省 (Ministry of Municipal Affairs and Agriculture)

P.O. Box 2727, Doha TEL 413535

法務省 (Ministry of Justice)

P.O. Box 4696, Doha TEL 427375

労働・社会問題省 (Ministry of Labour and Social Affairs)

P.O. Box 201, Doha TEL 321934

運輸・通信省 (Ministry of Transport and Communications)

P.O. Box 3416, Doha TEL 414855

保健省 (Ministry of Public Health)

P.O. Box 42, Doha TEL 441555

情報省 (Ministry of Information)

P.O. Box 1836, Doha TEL 831333

工業・公共事業省 (Ministry of Industry and Public Works)

P.O. Box 38, Doha TEL 321580

外務担当国務省 (Ministry of State for Foreign Affairs)

P.O. Box 250

18. 在外日本関係機関など

1974年 5月24日から、在カタル日本大使館がドーハ市内におかれている。
カタルに長期滞在する人は、大使館に在留届を出さなければならない。

Embassy of Japan
P.O. Box 2208 Doha
TEL 831224
FAX 832178

19. 地方都市

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は、国際協力のために赴任されるJICA長期派遣専門家、JICA職員等の方々に、任国での生活上必要な最新の情報を提供する目的で作成されました。

本書の原データは国際協力総合研修所内のデータベースに蓄積されており、新しいデータが入手され次第、逐次更新できるシステムにしております。

現在までに、下記の国々について任国情報が整備されております。

なお、政府技術協力のために赴任するJICA役職員および派遣専門家は、技術協力協定や要請文書などの外交関係により、任国への入国および滞在にあたって特別の条件が付され、一定の義務が免除されるなどの特権が付与されています。本情報はこれらの条件に基づいた赴任マニュアルです。したがってご利用はJICAの用務による業務渡航者に限らせていただいております。

また、本情報は外国人専門家という特殊なステータスによる生活ガイドであって、それぞれの国の人々の一般的な暮らしぶりを紹介するものではありません。各国の一般的な各種事情については、JICA図書館に多数資料をそろえておりますので合わせてご利用ください。

アジア地域

1. バングラディシュ
2. ブータン
3. ブルネイ
4. 中華人民共和国
5. インド
6. インドネシア
(ジャバ、スマタラ、ジャワジャバ、スマタラ)
7. 大韓民国
8. ラオス
9. マレーシア
10. ミャンマー
11. ネパール
12. パキスタン
13. フィリピン
14. シンガポール
15. スリ・ランカ
16. タイ (バンコク、チェンマイ、コンケン)

中近東地域

1. アルジェリア
2. パハレーン
3. エジプト
4. ジョルダン
5. クウェイト
6. モロッコ
7. オマーン
8. カタル
9. サウディ・アラビア
10. 南イエメン
11. スーダン
12. シリア
13. トルコ (アンカラ、イスタンブール)
14. アラブ首長国連邦 (ドバイ)
15. イエメン

太平洋地域

1. フィジー
2. マーシャル
3. ミクロネシア
4. パラオ
5. パプア・ニューギニア
6. ソロモン
7. ヴァヌアツ
8. 西サモア

アフリカ地域

1. ブルンディ
2. エチオピア
3. ガンビア
4. ガーナ
5. コートジボアール
6. ケニア
7. リベリア
8. マダガスカル (アンタナリボ、ティゴ・ヌリス)
9. マラウイ
10. モーリシャス
11. モザンビーク
12. ニジェール
13. ナイジェリア
14. ルワンダ
15. セネガル
16. セイシェル
17. ソマリア
18. タンザニア (ダルエスサラーム、ザンザール)
19. トーゴ
20. ザイール
21. ザンビア
22. ジンバブエ

中南米地域

1. アルゼンティン
2. ボリヴィア (ラ・パス、サンクルス)
3. ブラジル
(ブラリア、サンパウロ、リオデジャネイロ、レジオニ、ポルトアレガル、ベレン)
4. チリ
5. コロンビア
6. コスタ・リカ
7. ドミニカ共和国
8. エクアドル
9. グアテマラ
10. ホンデュラス
11. メキシコ
12. パナマ
13. パラグアイ (アスンシオン、エンカルサシオン)
14. ペルー
15. トリニダード・トバゴ
16. ウルグアイ
17. ヴェネズエラ

任国情報コメント用紙

本書をより使い易いものとするために、皆様からの貴重なご意見（説明不足、間違
い、誤字、脱字、ご要望など）をお待ちいたしております。ご記入に際しましては、
任国情報に関することのみ具体的にご指摘くださるようお願いいたします。

[送付先] 〒162 東京都新宿区市谷本村町10-5
国際協力センタービル
国際協力事業団国際協力総合研修所
技術情報課 任国情報係

国名		年度	年版
----	--	----	----

氏名		年齢	歳	性別	男・女
利用区分	所属(担当)部課名	指導科目	派遣期間		
JICA役職員					
JICA専門家等					
その他		(所属先)	(当該国での滞在期間)		
住所					
電話番号		日付	年	月	日

ページ	行	内 容

国 総 研 記 入 欄					
記 事		技術情報課確認印			
		データベース修正処理	課長	代理	担当
		月 日	月 日	月 日	月 日

